

田辺三菱製薬株式会社

2014年度第2四半期 決算説明会

(2014年4月1日～2014年9月30日)



田辺三菱製薬

2014年10月30日

代表取締役社長 三津家 正之

2014年度第2四半期 決算概要

(平成27年3月期)

売上高

1,989億円（対前年同期比 -1.9%）

営業利益

350億円（対前年同期比 +14.8%）

四半期純利益

325億円（対前年同期比 +13.9%）

トピックス

- ◆ 2型糖尿病治療剤「カナグル」を新発売（9月）
- ◆ アストラゼネカと糖尿病性腎症に関する共同研究契約を締結（8月）
- ◆ C型慢性肝炎治療剤「テラビック」について、ジェノタイプ2型の追加適応を取得（9月）
- ◆ 日本血液製剤機構との血漿分画製剤の販売提携を2015年3月末で終了することを発表（9月）

2014年度第2四半期 決算概況

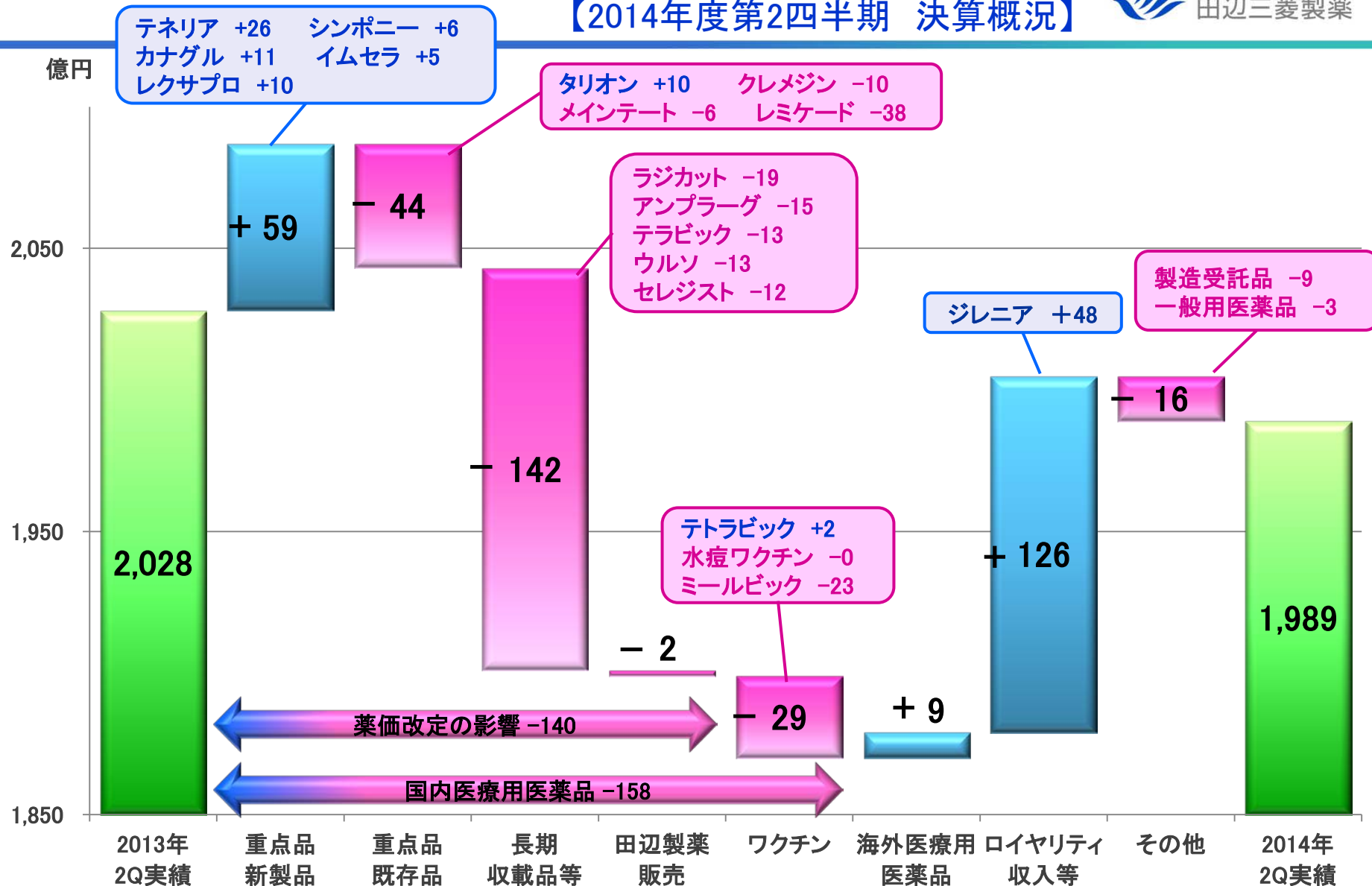
	2014年度	2013年度	増減		※上期予想	達成率
	億円	億円	億円	%	億円	%
売上高	1,989	2,028	-40	-1.9	2,010	98.9
売上原価	782	824	-42	-5.1	785	99.6
売上原価率	39.3%	40.6%			39.1%	
売上総利益	1,207	1,204	+3	+0.2	1,225	98.5
販管費	858	900	-42	-4.7	930	92.2
営業利益	350	305	+45	+14.8	295	118.5
経常利益	355	322	+33	+10.1	305	116.2
四半期純利益	325	285	+40	+13.9	210	154.8

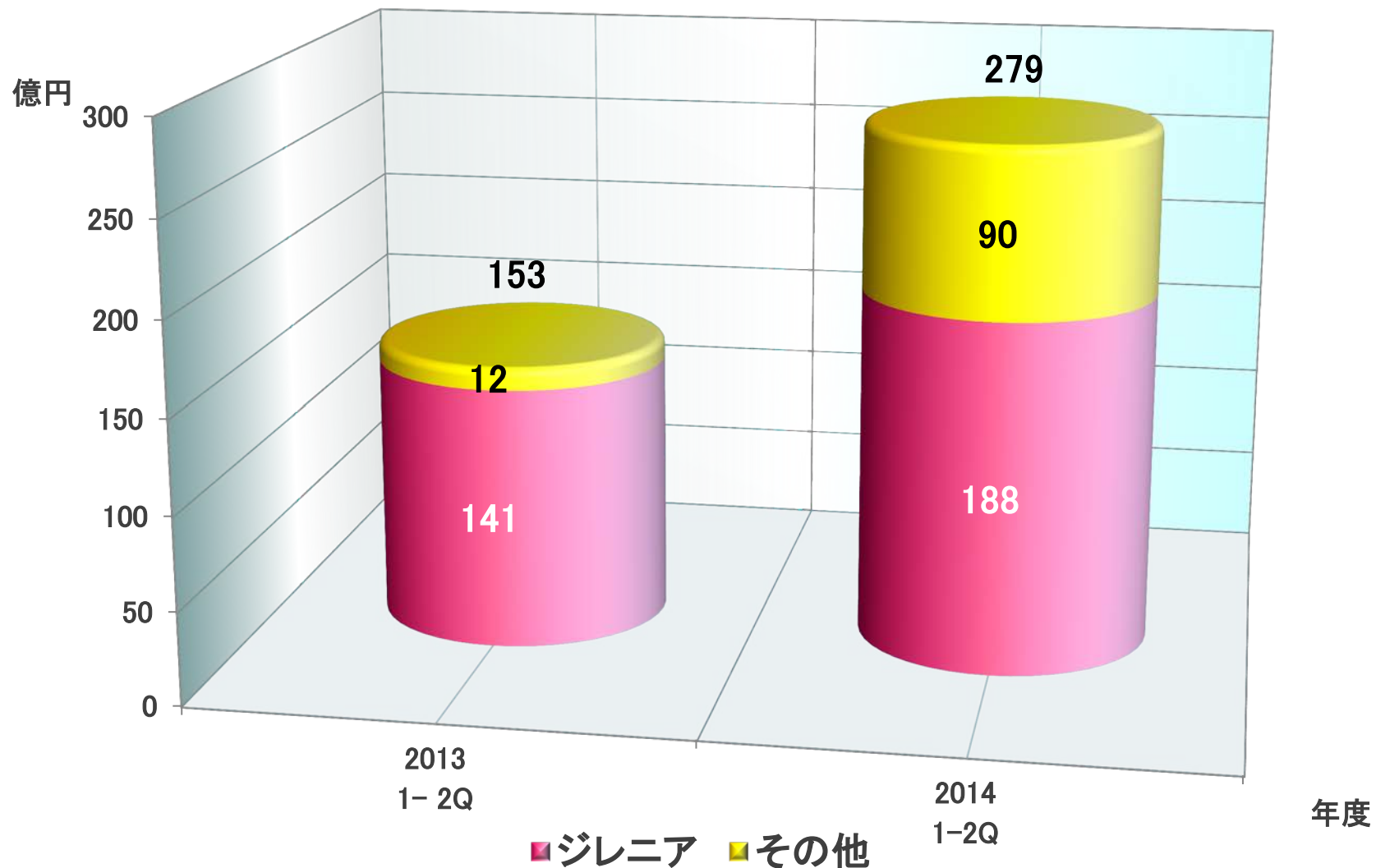
※上期予想:2014年5月8日、2013年度決算発表時に公表した予想値

当社は、2014年10月21日に、売上高、営業利益、経常利益、四半期純利益について上記予想を修正して公表

売上高の増減

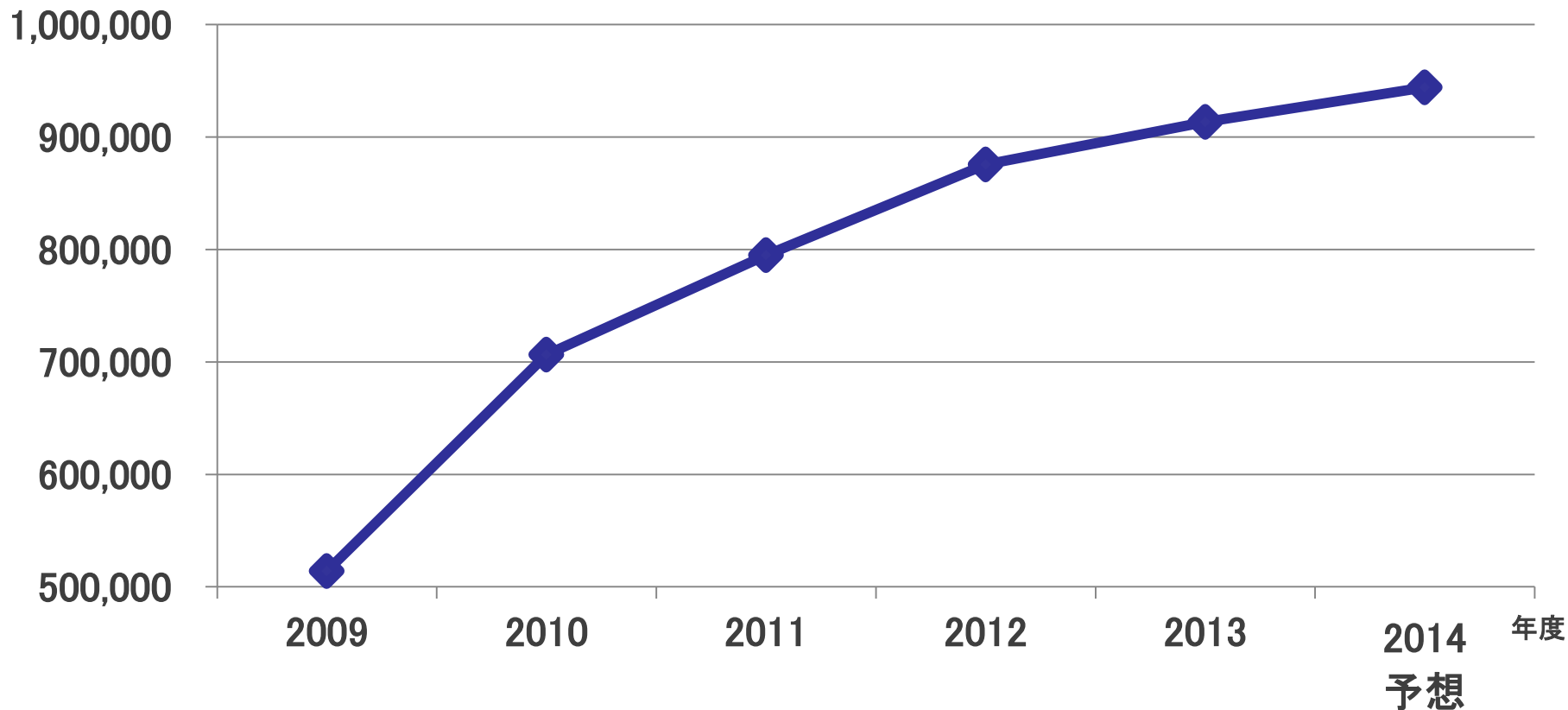
【2014年度第2四半期 決算概況】



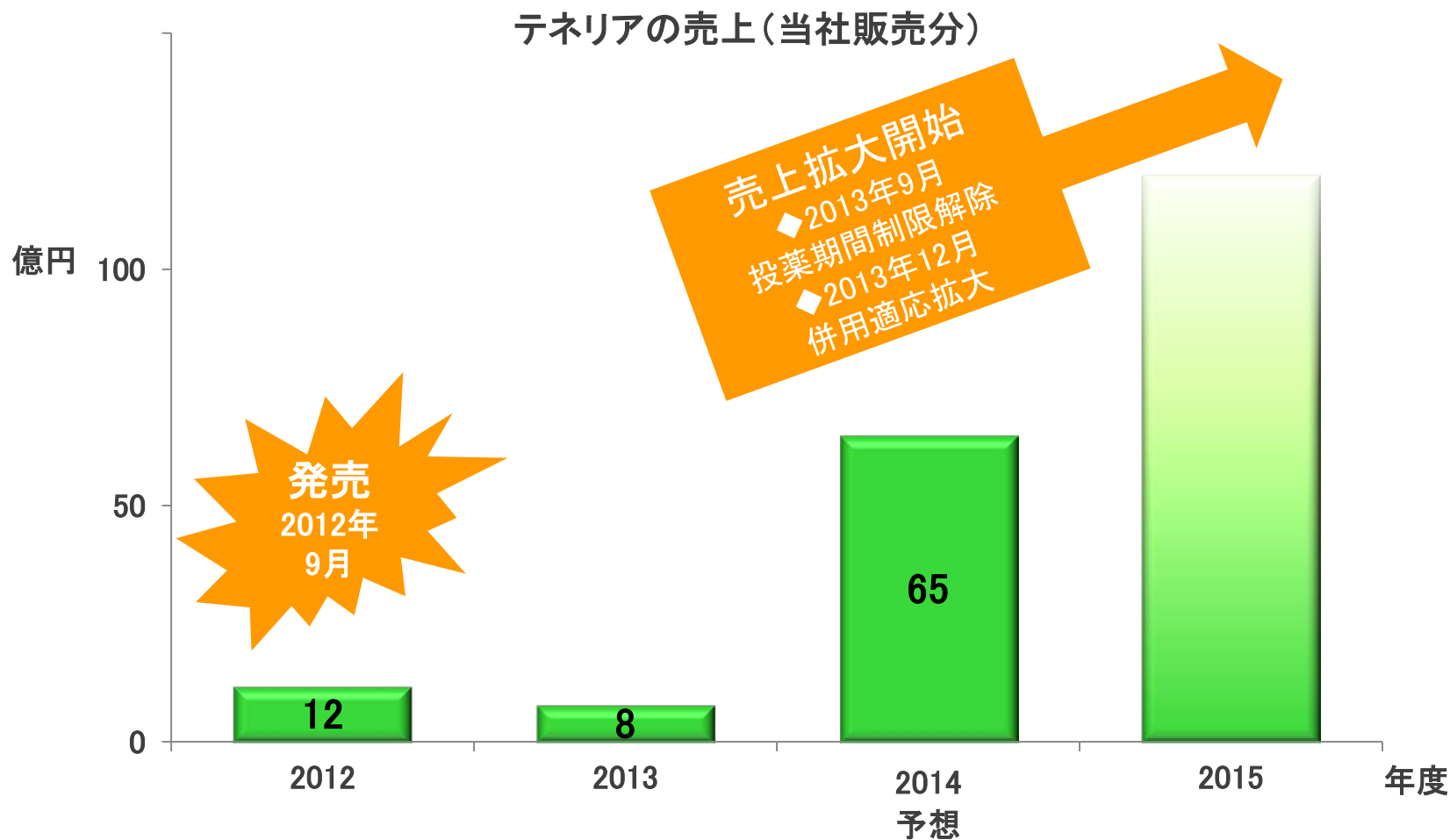


- ◆ 2014年度の売上ダウンは、大幅な薬価改定(-10.8%)の影響によるもの
- ◆ 2014年度上期は、数量で対前年同期比8%弱伸びている(実消化ベース)

◆数量(バイアル)



- ◆ 当社が創製、第一三共と共同販売
- ◆ 競合品との競争環境が整い、2014年度より売上が拡大開始



テネリア／カナグルの国内展開

【2014年度 第2四半期決算概況】

◆ テネリアとカナグルを原動力に、国内糖尿病領域でシェア拡大をめざす

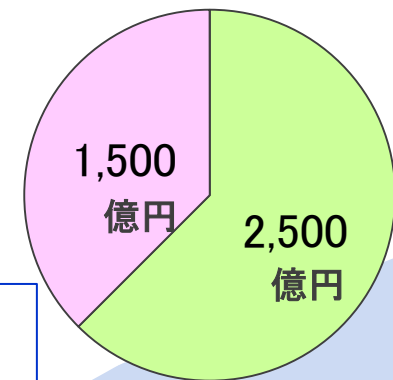
◆ テネリアおよびカナグルの共同販売契約を第一三共と締結

◆ テネリア発売(2012年9月)

- ◆ テネリアの投薬期間制限解除
- ◆ 追加併用療法に関する効能一部変更承認取得

- ◆ カナグル発売(2014年9月)
- ◆ カナグル／糖尿病性腎症(国際共同治験P3)
- ◆ テネリアとカナグルの合剤(P3)

市場規模(将来予想)



■ DPP-4 ■ SGLT2

適正使用
エビデンス構築

テネリアとカナグルの売上最大化

11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 年度

【2014年度第2四半期 決算概況】

	2014年度	2013年度	増減		※上期予想	達成率
	億円	億円	億円	%	億円	%
売上高	1,989	2,028	-40	-1.9	2,010	98.9
売上原価	782	824	-42	-5.1	785	99.6
売上原価率	39.3%	40.6%			39.1%	
売上総利益	1,207	1,204	+3	+0.2	1,225	98.5
販管費	858	900	-42	-4.7	930	92.2
研究開発費	319	343	-24	-6.9	360	88.7
人件費	230	239	-8	-3.5	235	98.0
のれん償却額	54	53	+1	+2.5	54	99.9
その他	254	266	-12	-4.4	281	90.4
営業利益	350	305	+45	+14.8	295	118.5

※上期予想:2014年5月8日、2013年度決算発表時に公表した予想値
 当社は、2014年10月21日に、売上高、営業利益について上記予想を修正して公表

営業外損益・特別損益

【2014年度第2四半期 決算概況】

	2014年度	2013年度	増減		※上期予想	達成率
	億円	億円	億円	%	億円	%
営業利益	350	305	+45	+14.8	295	118.5
営業外損益	5	17	-12	-71.2	10	50.1
経常利益	355	322	+33	+10.1	305	116.2
特別利益	136	119	16	+13.5		
固定資産売却益	119	-				
投資有価証券売却益	11	-				
仲裁裁定に伴う特別利益	-	110				
段階取得に係る差益	-	9				
関係会社株式売却益	6	-				
特別損失	27	9	+18	+206.1		
減損損失	9	8				
投資有価証券評価損	1	-				
関係会社整理損	14	-				
その他	2	1				
四半期純利益	325	285	+40	+13.9	210	154.8

※上期予想:2014年5月8日、2013年度決算発表時に公表した予想値

当社は、2014年10月21日に、営業利益、経常利益、四半期純利益について上記予想を修正して公表

2014年度 業績予想

(平成27年3月期)



2014年度 通期業績予想修正

	2014年度				2013年度		
	修正予想	当初予想	増減		実績	※増減	
	億円	億円	億円	%	億円	億円	%
売上高	4,060	4,090	-30	-0.7	4,127	-67	-1.6
売上原価	1,640	1,615	+25	+1.5	1,694	-54	-3.2
売上原価率	40.4%	39.5%			41.0%		
売上総利益	2,420	2,475	-55	-2.2	2,433	-13	-0.5
販管費	1,820	1,875	-55	-2.9	1,842	-22	-1.2
研究開発費	725	730	-5	-0.7	704	+21	+3.0
人件費	462	470	-8	-1.7	484	-22	-4.5
のれん償却額	108	108	0	0.0	106	+2	+1.5
その他	525	567	-42	-7.4	548	-23	-4.2
営業利益	600	600	0	0.0	591	+9	+1.5
営業外損益	15	15	0	0.0	28	-13	-45.5
経常利益	615	615	0	0.0	619	-4	-0.6
特別損益	0	0	0	0.0	106	-106	-
当期純利益	405	405	0	0.0	454	-49	-10.8

※2013年度の増減は修正予想との比較

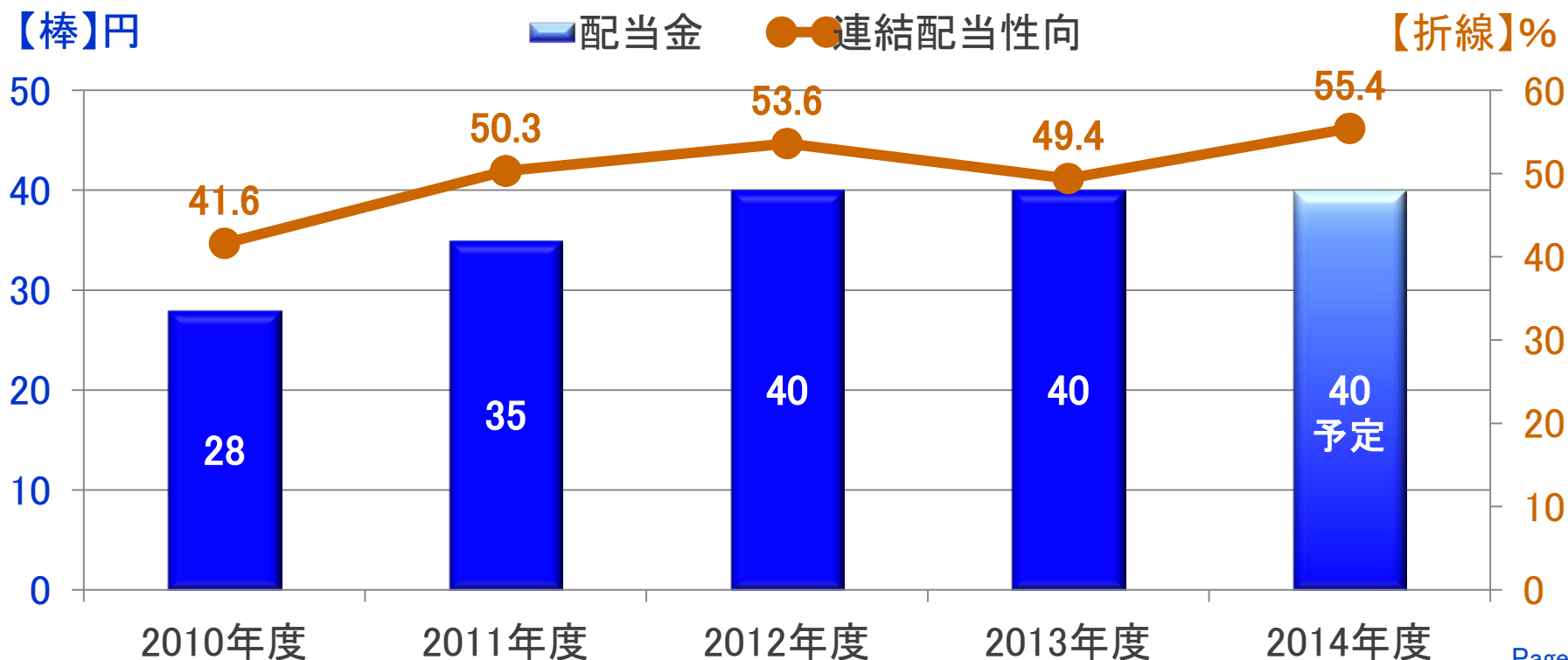
2014年度 通期業績予想修正 主要製品売上高

	2014年度				2013年度		
	修正予想	当初予想	増減		実績	※増減	
	億円	億円	億円	%	億円	億円	%
国内医療用医薬品	3,225	3,260	-35	-1.1	3,417	-193	-5.6
レミケード	703	687	+16	+2.4	763	-60	-7.9
タリオン	164	157	+7	+4.3	137	+27	+19.6
メインテート	145	160	-15	-9.7	155	-10	-6.5
シンポニー	115	120	-5	-3.9	94	+22	+23.2
クレメジン	105	120	-15	-12.4	126	-20	-16.2
レクサプロ	80	94	-14	-14.8	65	+16	+24.0
テネリア	65	67	-2	-3.5	8	+57	+714.4
イムセラ	35	36	-1	-3.2	23	+12	+53.7
ワクチン	282	273	+9	+3.3	284	-2	-0.7
インフルエンザ	76	75	+1	+1.2	72	+4	+5.1
テトラビック	71	76	-5	-7.1	67	+3	+5.1
水痘	52	42	+10	+24.4	36	+16	+45.7
田辺製薬販売	137	144	-7	-4.9	141	-4	-2.5
ロイヤリティ収入等	536	536	0	0.0	376	+160	+42.5
ジレニア	非開示	非開示	-	-	322	-	-

※2013年度の増減は修正予想との比較

◆ 配当方針

- ◆ 当社は、将来成長のための投資を積極的に実行することにより企業価値の増大を図るとともに、安定的、継続的に株主還元を充実させていくことを基本方針としている
- ◆ 中期経営計画11-15期間では、利益成長に加え、連結配当性向50%（のれん償却前の連結配当性向40%）を目処に引き上げ、株主還元を拡充する



開発パイプラインの進捗

A decorative horizontal bar with a blue-to-teal gradient, starting as a solid blue bar on the left and fading into a light teal gradient on the right.

開発パイプラインの進捗状況

(2014年7月29日以降の進捗)

New Value Creation

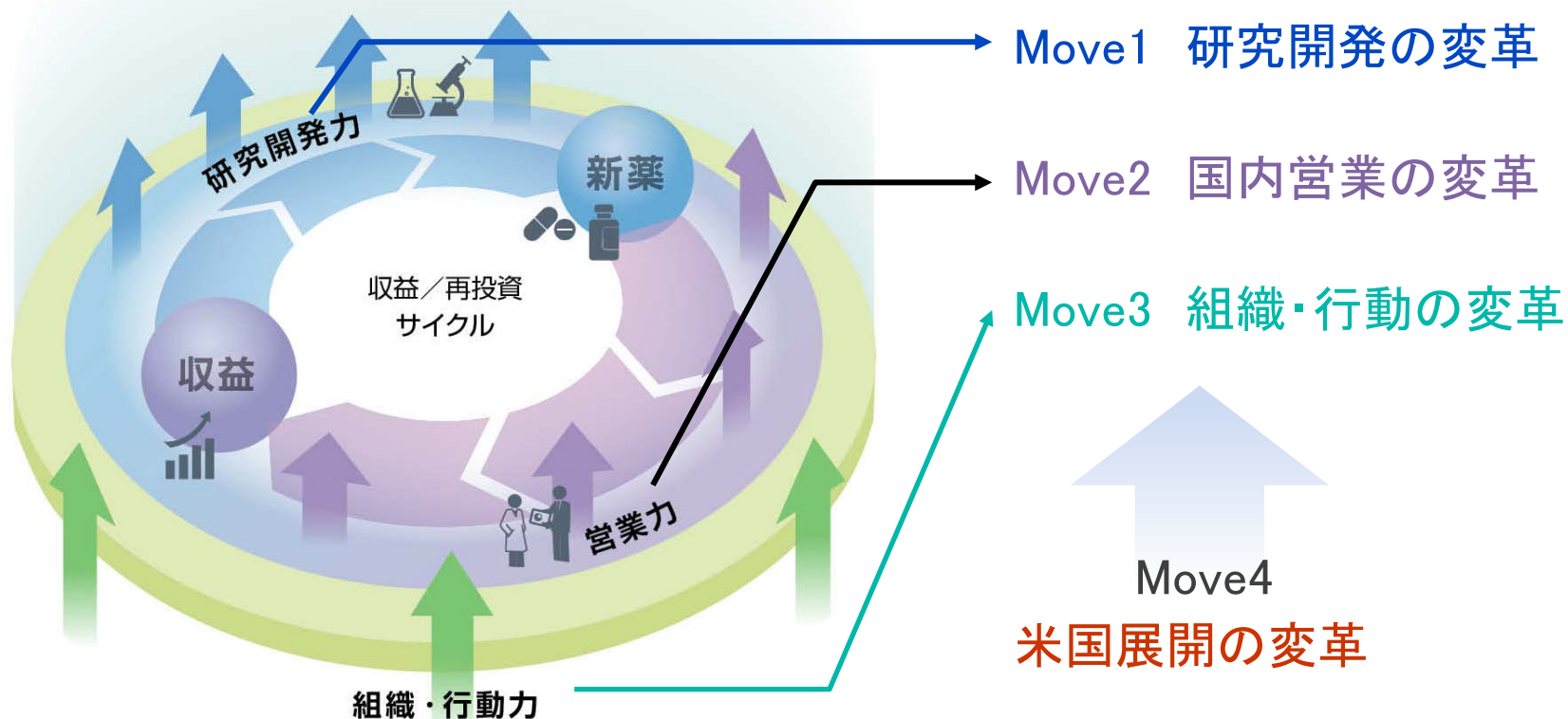


	治験コード/製品名	機序(予定適応症)	地域	P1	P2	P3	申請	承認
自社開発	テラビック	NS3-4Aプロテアーゼ阻害剤 (C型慢性肝炎[ジェノタイプ2])	日本					
	MP-424	NS3-4Aプロテアーゼ阻害剤 (C型慢性肝炎)	台湾					
	MT-2412	DPP-4阻害剤とSGLT2阻害剤の 合剤 (2型糖尿病)	日本					
	インフルエンザ ワクチン	植物由来VLPワクチン (季節性インフルエンザの予防)	米国・ カナダ					
	MT-0814	CCケモカイン受容体3阻害剤 (加齢黄斑変性症)	日本					
導出	TA-7284 (導出先: ヤンセン ファーマシューティカ ルズ)	SGLT2阻害剤 (2型糖尿病・メトホルミンとの合剤 [即放性])	米国					
	MT-4580 (導出先: 協和発酵 キリン)	カルシウム受容体作動剤 (透析患者における二次性副甲状腺機能亢進症)	日本					

「Value (for Customer)」と「Differentiation」を実現するための
ベストプラクティスは独自の価値を一番乗りでお届けすること

独自の価値を一番乗りでお届けする、
スピード感のある創薬企業への**変革**をめざす

課題・期限および責任者を明確にして、
全社の取り組みとして展開



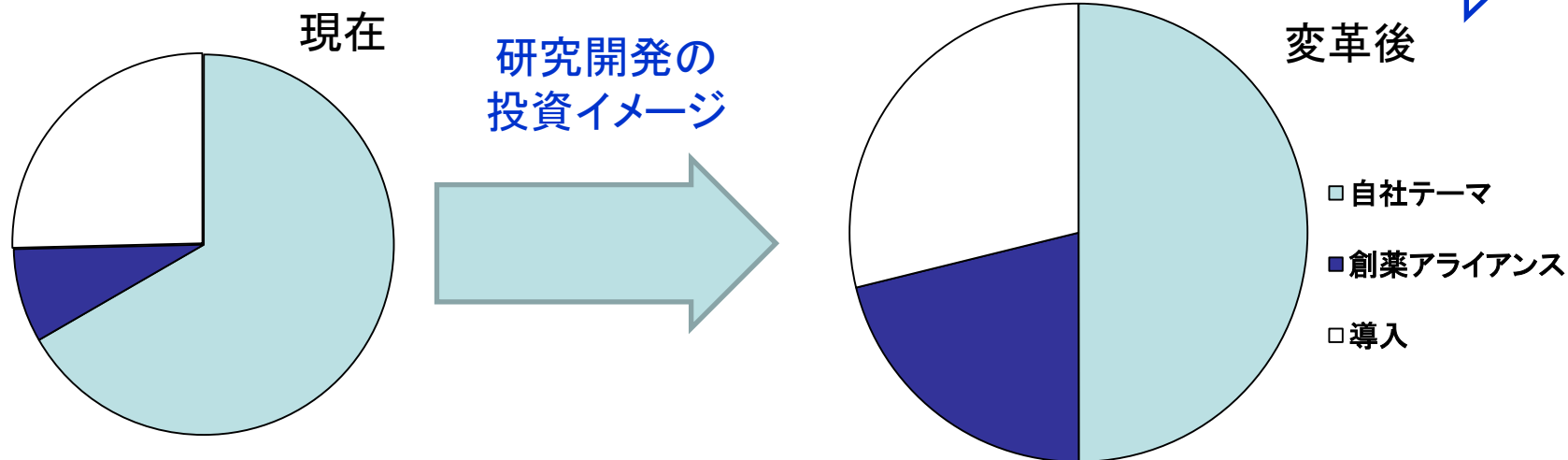
Move1 研究開発の変革、 Move4 米国展開の変革 パイプライン強化と米国事業立ち上げ

独自の価値・一番乗り

Move1 研究開発の変革 研究・開発の質の向上とテーマ数拡充

Move 3 組織・行動の変革 構造改革プロジェクトなどから生じる原資の再配分

Move 4 米国展開の変革 事業基盤の拡充とパイプライン強化
◆ トランスレーショナルリサーチの強化と米国上市品創製
◆ 今後も成長が見込まれる世界最大の医薬品市場における事業の立ち上げ



改革のポイント

営業の改革

新薬シフトへの加速化

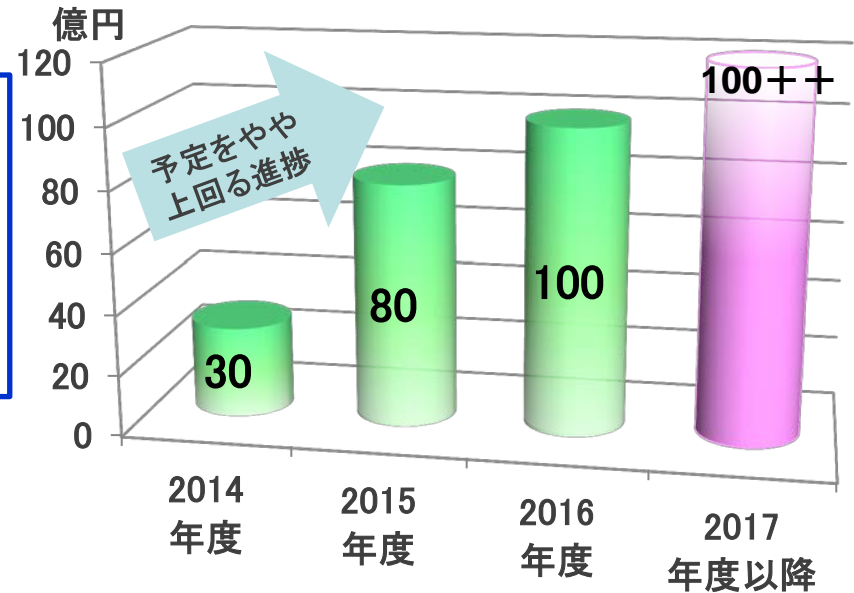
製品説明力と競争に打ち勝つ販売力を持った
MRの育成

営業提携業務の充実

営業生産性の向上

競合他社に打ち勝つ営業へ

コスト削減目標



構造改革プロジェクト

- ◆ 2016年度に100億円規模のコストを削減
- ◆ 進捗状況
 - ◆ 2014年度は予定をやや上回る進捗で進行
 - ◆ 事業の見直しとして、中国の輸液事業を譲渡(2014年10月)

生産拠点再編

- ◆ 田辺三菱製薬工場の生産拠点を、5から2拠点とする
- ◆ 2017年度以降、固定費の変動費化による原価低減を見込む

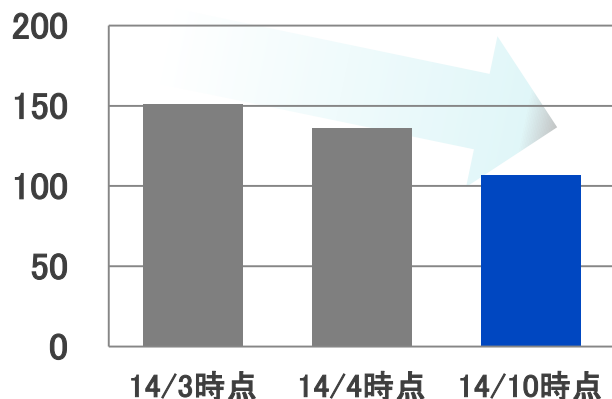
生産拠点	方針	予定/進捗状況
足利	シミックホールディングスへ譲渡	譲渡完了(2014年4月)
鹿島	沢井製薬へ譲渡	基本合意(2014年6月) ⇒ 最終契約(2014年11月) ⇒ 譲渡完了予定(2015年4月)
大阪(加島)	閉鎖	閉鎖予定(2018年3月末まで)

組織機能強化を通じた企業体質のスリム化

昨年度より実施している「構造改革プロジェクト」に加え、
人事・組織システムの見直し、
組織機能強化（意思決定のあり方、仕事のやり方など）に取り組む

組織機能強化と企業体質のスリム化

- ◆ 経営の意思と従業員の主体的行動が密につながる、
組織階層の少ない組織
- ◆ 顧客と競合相手を視点の中心に据え、
社内調整にエネルギーを浪費しない組織



変革に向けて継続的に取り組み、
社員一人ひとりの行動としてのMoveと、
会社施策としてのMoveを両輪として、
大きなMovementsにつなげていく

 **MOVE**

*New **Value** Creation*

「新たな価値を創造しつづける企業」へ

補足資料



セグメント別売上高

	2014年度	2013年度	増減		※上期予想	進捗率
	億円	億円	億円	%	億円	%
売上高	1,989	2,028	-40	-1.9	2,010	98.9
(うち海外売上高)	(339)	(262)	(+77)	(+29.5)	(338)	(+0.2)
医薬品事業	1,987	2,021	-34	-1.7	2,008	98.9
国内医療用医薬品	1,552	1,710	-158	-9.2	1,579	98.3
ロイヤリティ収入等	279	153	+126	+82.3	277	100.6
海外医療用医薬品	113	104	+9	+8.7	113	100.3
一般用医薬品	22	24	-3	-10.3	22	99.2
製造受託品	21	29	-9	-29.3	17	122.3
その他	2	8	-5	-71.2	2	111.5

※上期予想:2014年5月8日、2013年度決算発表時に公表した予想値
 当社は、2014年10月21日に、売上高に関して上記予想を修正して公表

国内医療用医薬品 重点品売上高

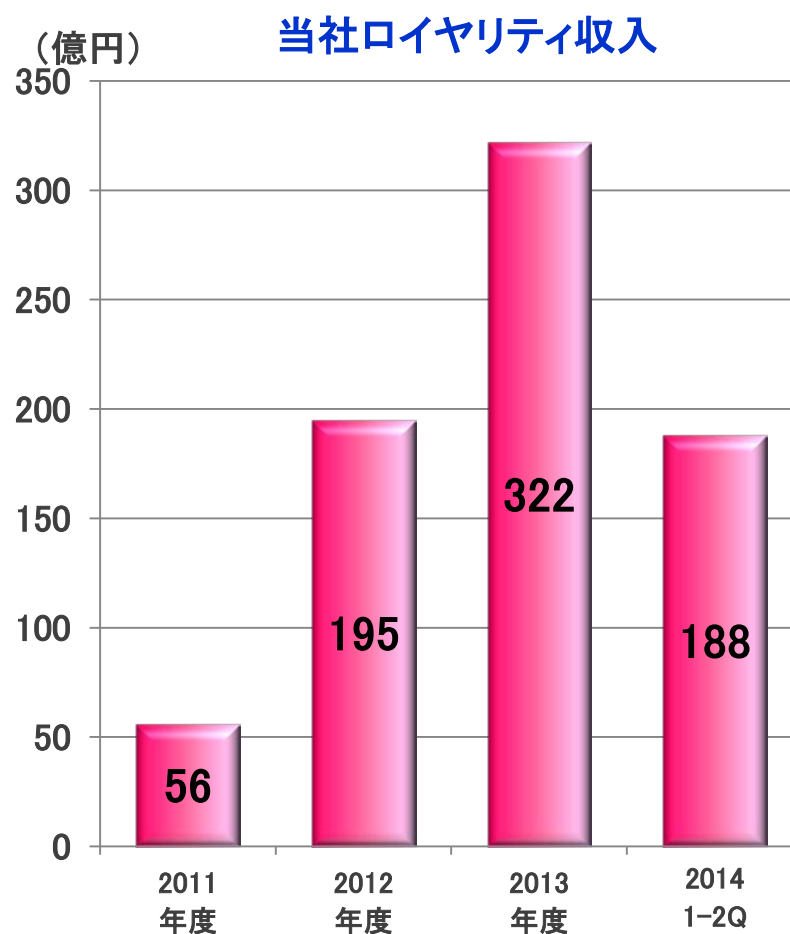
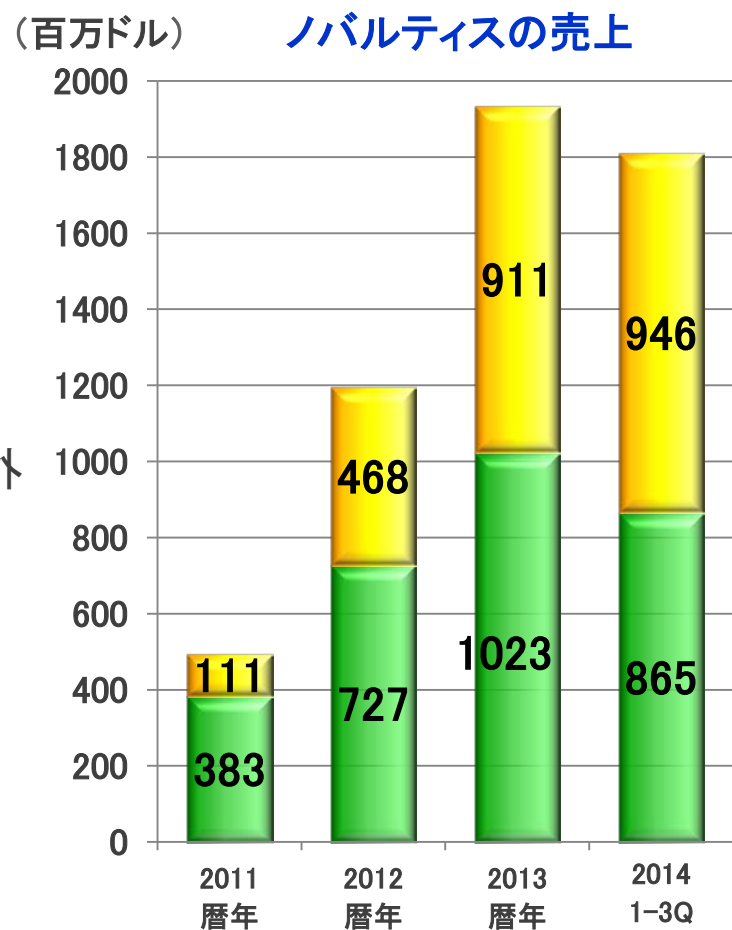
【2014年度第2四半期 補足資料】

	2014年度		2013年度		増減		※上期予想	進捗率
	億円	億円	億円	億円	%	億円	%	
シンポニー	50	44	+6	+13.8	54	93.3		
レクサプロ	34	24	+10	+40.1	42	81.2		
テネリア	27	0	+26	-	31	86.0		
イムセラ	15	10	+5	+50.4	17	87.3		
カナグル	11	-	+11	-	-	-		
新製品合計①	137	79	+59	+74.3	* 144	* 87.5		
レミケード	352	390	-38	-9.8	333	105.8		
メインテート	72	77	-6	-7.4	79	90.6		
タリオン	61	51	+10	+18.6	56	108.6		
クレメジン	54	64	-10	-15.4	60	90.3		
既存品合計②	539	583	-44	-7.6	528	102.1		
テトラビック	36	34	+2	+4.8	39	91.4		
水痘ワクチン	19	19	-0	-0.4	12	160.4		
ワクチン合計③	55	53	+2	+2.9	51	107.6		
重点品合計①+②+③	731	715	+16	+2.2	* 723	* 99.6		

※上期予想:2014年5月8日 2013年度決算発表時に公表した予想値

* カナグルを除く

- ◆ ノバルティスの2014年第3四半期の累計売上高は1,811百万ドル(前年同期比+29%)
- ◆ 当社第2四半期のロイヤリティ収入は188億円(前年同期比+33.9%)



製品パイプラインの現状(新規薬剤・効能追加)

赤字:2013年度決算(2014年5月8日)以降の進捗

2014年10月29日現在

フェーズ1試験

- MT-1303(日・欧・米)
炎症・自己免疫疾患
- MP-513(米国)
2型糖尿病
- MT-3995(米国)
糖尿病性腎症
- MP-124(米国)
脳梗塞急性期
- MP-157(欧州)
高血圧症
- GB-1057(米国)
安定化剤
- MP-424(韓国)
C型慢性肝炎
- MT-0814(日本)
加齢黄斑変性症
- コレバイン(日本)
高リン血症
- インフルエンザワクチン
(カナダ)
インフルエンザ[H7N9]予防

フェーズ2試験

- MT-1303(欧州)
多発性硬化症
乾癬
- MP-513(欧州)
2型糖尿病
- MT-3995(欧州、日本)
糖尿病性腎症
- MT-2301(日本)
Hib予防
- インフルエンザワクチン
(カナダ)
インフルエンザ[H5N1]予防
- インフルエンザワクチン
(米国、カナダ)
季節性インフルエンザ予防
- コレバイン(日本)
2型糖尿病
- 契約終了 -
- MT-9938(米国)
難治性そう痒症

フェーズ3試験

- MT-4666(国際共同治験)*1
アルツハイマー型認知症
- MP-214(日本)
統合失調症
- レミケード(日本)
難治性川崎病
特殊型ベーチェット病
小児・クローン病
小児・潰瘍性大腸炎
乾癬・増量
- イムセラ(国際共同治験)*2
慢性炎症性脱髄性多発根神経炎(CIDP)
- ビンドレン(欧州)
小児・高リン血症
- カナグル(国際共同治験)*3
糖尿病性腎症
- MT-2412(日本)
2型糖尿病
- トリビック(日本)*4
ワクチン・トキシノイド混合製剤
(百日せきジフテリア破傷風感染予防[2期接種])
- ラジカット(日本)
筋萎縮性側索硬化症
- テラビック(日本)
C型慢性肝炎(ペガシス併用)
C型慢性肝炎(フェロン併用)

申請

- タリオン(日本)
小児・アレルギー性鼻炎
小児・アトピー性皮膚炎

承認

- TA-7284/カナグル(日本)
2型糖尿病
- テラビック(日本)
C型慢性肝炎(ジェノタイプ2)
- MP-424(台湾)
C型慢性肝炎

主な導出品(フェーズ3以降)

承認

- MP-513(韓国)
2型糖尿病
- TA-7284/Met IR合剤(米国)
2型糖尿病

フェーズ3

- FTY720(国際共同治験)*2
CIDP
- FTY720(国際共同治験)
一次進行型多発性硬化症
- TA-7284/Met XR合剤(米国)
2型糖尿病
- TA-7284(国際共同治験)
糖尿病性腎症

治療対象疾患

- : 自己免疫疾患 ■ : 糖尿病・腎疾患
- : 中枢神経系疾患 ■ : ワクチン ■ : その他

*1 : フォーラム ファーマシューティカルズと共同開発

*2 : 日本はノバルティスファーマと共同開発, 海外はノバルティスファーマに導出

*3 : 治験依頼者: ヤンセン リサーチ アンド デベロップメント

*4 : 阪大微生物病研究会と共同開発

注意事項

本資料に記載した一切の記述内容は、現時点での入手可能な情報に基づき、一部主観的前提をおいて合理的に判断したものであり、将来の結果はさまざまな要素により大きく異なる可能性がありますので、ご了承ください。